

小学校中学年体づくり運動領域における バルシューレプログラム活用可能性の検討：

コーディネーション能力の定位能力及び分化能力獲得に及ぼす効果 を踏まえて

田中 涼子 (奈良教育大学)

1. 目的

本研究の目的は、バルシューレプログラムがコーディネーション能力の定位能力及び文化能力の獲得に及ぼす影響の検証を踏まえて、小学校中学年体づくり運動領域におけるバルシューレプログラム活用可能性について検討することであった。

2. 研究方法

2022年5月25日～7月13日にかけて8回バルシューレ教室を実施した。対象者は、小学校3年生計16名であった。調査及び分析方法は、教室実施前後にコーディネーション能力を測定するライブツィヒ的当てテスト及び的当てテスト(加納ほか, 2016)、ボール投げ上げテストを実施し、対応のあるt検定を用いて平均値の比較を行った。また、的当てテストについて、滝沢・近藤(2017)の観察的評価基準を用いて、投動作の観察的評価を行った。

3. 結果及び考察

コーディネーション能力を測定したテストは、教室実施前後の平均値に有意差は認められなかった(表1)。一方で、的当てテスト投動作時の観察的評価は、項目①において教室実施後に有意差が認められた(表2)。以上から、各プログラムにおける投げ方のバリエーションを検討すること、上肢の使い方を指導すること、及び正確性を強く求めるプログラムが必要であると考えられた。

ボール投げ上げテストは、教室実施後の平均値が有意に高値を示した(表1)。この結果から、ボールを投げ上げ捕球する動作及び捕球動作のプログラムを繰り返し実施することで投げる能力と捕る

能力を高めることができるのではないかと考えられた。

表1 各テスト項目の結果

| テスト項目 | Pre(N=11) | | Post(N=11) | | t値 |
|---------|-----------|------|------------|------|-------------|
| | M | S.D. | M | S.D. | |
| ライブ・テニス | 4.04 | 2.00 | 4.36 | 1.51 | -0.628 n.s. |
| ライブ・野球 | 4.84 | 1.35 | 4.65 | 2.36 | 0.381 n.s. |
| 的当て | 4.47 | 1.15 | 4.18 | 1.72 | 0.797 n.s. |
| ボール投げ上げ | 8.45 | 9.67 | 10.82 | 4.76 | -4.640 *** |

有意確率 *** : p<.001

表2 的当てテスト投動作時の観察的評価の結果

| 的当て動作 | Pre(N=11) | | Post(N=11) | | t値 |
|-----------------------------|-----------|------|------------|------|-------------|
| | M | S.D. | M | S.D. | |
| ①構え方・左足(左足の踏み出し) | 2.08 | 0.43 | 1.55 | 0.90 | 2.504 * |
| ②左腕 | 2.39 | 0.64 | 2.35 | 1.43 | 0.102 n.s. |
| ③右腕(投げる前)・右肘と右肩と左肩を結んだ直線の傾き | 1.42 | 0.29 | 1.30 | 0.28 | 0.498 n.s. |
| ④右腕(投げる直前) | 1.67 | 1.62 | 1.64 | 2.05 | 0.050 n.s. |
| ⑤体幹の捻り動作 | 2.18 | 0.19 | 2.23 | 2.27 | -0.106 n.s. |
| ⑥右足 | 1.82 | 1.16 | 1.42 | 0.58 | 1.141 n.s. |
| ⑦右腕(投げた後：フォロースルー) | 3.00 | 1.82 | 3.35 | 1.20 | -1.044 n.s. |
| 総合平均 | 2.08 | 0.44 | 1.98 | 0.66 | 0.351 n.s. |

有意確率 * : p<.05

4. 結論

本研究の結果から、バルシューレプログラムを体づくり運動の単元として構成し、コーディネーション能力向上を意図する場合、本研究で示唆された観点からプログラム及び指導方略に修正を加える必要があることが示された。

〈主な参考文献〉

- 1)加納裕久・久我アレキサンデル・玉腰和典・丸山真司(2016)幼児期における定位能力・分化能力の発達の特性：投・跳動作に着目して。発育発達研究, 70 : 36-47.
- 2)滝沢洋平・近藤智靖(2017)投動作の観察的評価基準に関する研究—小学校全学年児童の動作を対象として—。体育科教育学研究, 33(2) : 1-17.